

第5分科会テーマ

「これからの時代に求められる社会教育委員と公民館運営審議会委員の役割」

花火大会をきっかけにした地域の元気づくり～社会教育活動を通じての地域創り～

醍醐地区慈恩寺花火大会実行委員会 事務局長 茂木 藤雄

1 はじめに

慈恩寺がある寒河江市醍醐地区は、江戸時代には東北随一の御朱印地として知られている。しかしながら、私が市の公民館連絡協議会役員として6年、社会教育委員として3年間務めた間は、定例の会議のみで、地区の活性化につながるような具体的な取組みができていないことにもどかしさを感じていた。

そんな折、市の第5次振興計画の見直しを行う中に「悠久の魅力向上プロジェクト」として慈恩寺の国史跡指定へ向けた取り組みや景観計画の策定などが示されたのである。

そのプロジェクトを受け、醍醐地区でも、地域住民らが集まって地区の将来像を考えるワークショップを重ねてきた。その結果、春は稚児桜、夏は蓮、秋は彼岸花と、慈恩寺は季節ごとの景観が魅力であることから、冬にも幻想的な「花」を楽しんでもらおうということで、平成23年度から花火大会を開催することとなった。

2 具体的な取り組み

(1) 花火大会

初年度は地域住民約15人が中心となって実行委員会を結成。寒河江市からの地域いきいき事業補助金30万円と、住民や地元企業などからの寄付金をもとに、約400発の花火を打ち上げた。補助金は3年間の期限であったが、年々ご協力をいただける企業が増え、補助金終了後も自力開催することができるようになり、打上げ規模も約650発に拡大している。

そのほか、花火打ち上げと併せて、

- ・東北芸術工科大学とコラボし慈恩寺十景詩をモチーフとした絵灯籠を作成、毎年点灯し展示
- ・市内外の学校を中心に声がけし慈恩寺絵画コンクールを開催
- ・Instagramを活用した写真コンテストを開催
- ・大会運営に従事いただいた方の交流会を、婚活イベントを兼ねて同時開催

など、多種多様なイベントを同時開催した。



(2) 公民館活動

私は、同時期に地区公民館の分館長も担っていた。それまでにあった公民館活動に加え、

- ・ミニ門松づくり
- ・新そば打ち
- ・山形県新庄市出身の柳家メ治の寄席
- ・地区分館合同で歩け歩け大会
- ・醍醐のごっつお教室（ごちそうの方言）と小学校6年生を送る会を同時開催
- ・いきいき百歳体操教室などの新事業を設立し、全年代が集まりやすい公民館づくりを目指した。



3 活動等の成果

慈恩寺は国指定史跡として、平成 26 年に正式に決定され、令和 3 年 5 月にはガイダンス施設の「慈恩寺テラス」が完成した。慈恩寺を訪れる方々の史跡への理解と利便性を高めることが期待できる。



また、上記の公民館新事業は、社会教育委員を務めていた時に他団体の活動事例に触れたり、様々な補助金や助成金の制度に触れたりした経験からヒントを得たものが多く、公民館連絡協議会等の役員をしていた時のネットワークの広がりから連携・協力できたものもある。社会教育の現場で得た知識と経験とネットワークを、一住民として地域に持ち帰り活かすことができた。

慈恩寺の初詣と冬の花火を結びつけることで、話題性と知名度を高め、人が集まることにより醍醐地区及び寒河江市全体の活性化を図ることができた。醍醐地区慈恩寺花火大会は、地域住民によって企画され、現在に至るまで地域住民の手によって運営されてきている。

4 今後の課題

慈恩寺花火大会の実行委員会の高齢化及び人口減少や生活スタイルの多様化により存続できるかの話があがってきている。当団体だけの問題ではなく、地区内の様々な団体が活動を縮小したり解散したりせざるを得ない状況であり、地域活動の衰退を危惧している。

そんな中、私は今年度から醍醐地区社会福祉協議会会長として学童保育の管理者となったり、醍醐小学校の地域コーディネーターの任命を受けたりと学校との関係が深くなってきている。これまでの経験やネットワークをさらに活用して、次世代の子ども達へ地区の歴史や伝統を伝えていきたいと考えている。